

教師教育、日本の現状
－日本学術会議で考える－

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：日本学術会議の「教員養成」についての勉強会に参加されたそうですね。

A：(林明夫：以下省略)はい。3月12日に東京・六本木の日本学術会議講堂で開かれた日本学術会議主催公開講演会「知識社会における教師の科学的教養と教員養成」に参加しました。日本学術会議のホームページで知り、ファックスで申込みをしました。

Q：林さんは、いろいろな勉強会をホームページで知り、参加されているそうですね。どのように勉強会を探すのですか。

A：ホームページの定点観測です。つまり、1週間に1～2度、これぞと思う団体のホームページを自分で開き、これから開催される会合とその内容を詳細に調べ探しています。メーリングリストで行事の自動配信をしてくれる団体はごくまれです。また、開催案内の文書を送付してくれるのは、その会に入会し、年会費を払うなど何らかの形で会員登録をしている場合だけです。そこで、自分の勉強の機会は自分の力でコツコツと探すをモットーにしています。御参考までに。

Q：ところで、日本の教師教育の問題は何ですか。

A：1980年代までは世界最高水準であった日本の教師のレベルが、現在では大幅に落ち、OECDの先進諸国の中では最も低い水準になってしまったということです。

Q：えっ、1980年代までは日本の教師のレベルは世界最高水準だったのですか。

A：アメリカの十数州を除いて、世界では戦後しばらくの間教師教育は後期中等教育で行われていましたが、日本では終戦直後から大学レベルで教師教育が行われました。日本の教師の待遇は他の公務員と比べ非常に高く、また、これに加えて校内・校外での自主的な研修会が非常に盛んでした。自らの使命を深く自覚した教師が多く、社会から信頼をされていたのが日本の教師でした。いろいろなことの相乗効果の結果、日本の教師のレベルは世界最高、その結果日本の教育は世界最高であると言われていたようです。

Q：それがなぜ、最近では日本の教師のレベルがOECD諸国の中で最低になってしまったのですか。

A：その理由の一つは、欧米の国々も1980年代までに教師教育を「学部レベル」に上げ、1990年以降は多くの国々で「大学院レベル」にまで引き上げたからです。欧米と比べ、日本は大学院での教師教育に余り熱心でなかったと言えます

Q：日本の教師は、大学院出身者は余り多くないそうですね。

A：日本の幼稚園教師の7割は短期大学卒業、小学校教師で修士号取得者は1.4%、中学校教師で修士号取得者は2.7%、高校教師ですら修士号取得者は10.6%です。

Q：欧米の教師はどうですか。

A：OECDのPISA(15歳時の学力達成度テスト)No.1になったフィンランドは、小学校4年生までを教えるクラスルーム・ティーチャーも、小学校5年生から高校3年生までを教えるサブジェクト・ティーチャーも、すべて修士号取得者です。そして、校長の多くは博士号取得者です。

アメリカは、7割の教師が修士号取得者、校長の4割は博士号取得者です。ドイツ、フランスは、修士号は与えていませんが、学部卒業後2年間を含む大学院レベルの教師教育を行っているようです。

日本は、大半の教師教育を学部レベルで止めたため、この15～20年間で教師教育に関しては世界から1～2周遅れてしまったと言えるようです。

*以上は、佐藤学・東京大学大学院教育研究科教授の基調講演「これからの教師教育について－国際的視点からの歴史と展望－」を参考にさせて頂きました。また、1昨年のフィンランドでの国際会議での私のメモも参考にしました。

Q：学習塾や予備校、私立学校の経営者の先生方に考えて頂きたいことはありますか。

A：安倍内閣が行おうとしている大学改革の一つとして、「教職専門職大学院」が多くの大学で来春からスタートしようとしています。是非、皆様も当事者意識に基づく強い御関心をお持ち頂き、何らかの形で積極的に関与なさることをお勧めいたします。

例えば、御自身や自分の組織の教師を大学院の正式な学生や聴講生として入学する・入学させる、共同研究の申し入れをするなど、いろいろな関与の方法があると思います。

また、政府は、学習塾講師についても資格制度を整備する方針を固めたようです。その場合、教職専門職大学院などの職業訓練の受講歴を記載した「ジョブカード」の活用が考えられていますので、問題は身近に迫っているとも言えます。

Q：開倫塾では、どのようにするつもりですか。

A：お陰様で、開倫塾は、2007年1月末日のピーク時で塾生が6000名になりました。現在300名以上の教職員を擁する、地方では中堅の学習塾の一つになりつつあります。学習塾においても教師教育こそが教育の要(かなめ)と考えますので、正式な大学院とも連携しながら、2010年までに「企業内」の「教職専門職大学院」をスタートさせようと考え、現在準備中です。

「教師教育のカリキュラム開発」、「教師教育の担い手育成」、「教師教育のマネジメント構築」のための少人数の研究会を今秋東京でスタートします。よろしかったら一緒に勉強しませんか。

御関心のある方は御連絡下さい。(0284-72-5945 開倫塾塾長室、高尾まで)

皆様は、どのようにお考えですか。

－ 2007年4月24日記－